

《令五年度 暗唱⑥》

「桐壺」 (「源氏物語」より)

むらさきしきが
紫式部

いづれの おんときにか
にようご、こうい
あまた さぶらひ たまひける なかに
いと やむごとなき きはには あらぬが
すぐれて ときめきたまふ ありけり。

《今のことば
の言葉で言うと・・・》

どの帝のころだったか、女御、
更衣が何人も仕えていらっしやる
なかに、たいして高い身分ではない
方で、とりわけ帝の寵愛を受け
ていた方がありました。

